平成 27 年度看護部行動理念　「振り返ろう、看護の原点！充実させよう、チーム医療！」

見つめる目
しなやかな心
医療を支える　看護の手

看護部だより

2015 年
11 月号
第 295 号

特定医療法人衆済会
増子記念病院
看護部
部長　上村　志磨子
（認定看護管理者）

秋の「火災想定訓練」に参加して

防災意識を持ちましょう！

4 階病棟　主任　田中　珠美

ここ数年、大きな自然災害が多くなったように感じます。今年に入り 9 月からの約 2 カ月でも熊本県の阿蘇山中岳の噴火や台風 18 号が知多半島に上陸後、日本海に進み温帯低気圧に変わり南からの湿った空気が流れ込んだ影響で、西日本から北日本にかけて広い範囲で大雨になりました。特に関東地方と東北地方では、記録的な大雨になり茨城県常総市の鬼怒川で堤防が決壊し多大な被害がでました。また、台風 21 号は、与那国島で最大瞬間風速 81.1m の暴風で様々な被害をもたらしました。東海地方でも平成 12 年 9 月に集中豪雨があり、新川で 100mにわたる破堤があり甚大な被害がありました。当院の患者さんやスタッフも被害にあわれた方が多数いらっしゃいました。当時のことを思い出しながら、いつか来ると言われている東南海地震が発生したらと思い“ゾッ”としながらと同時に、当院の防災についても考えてみました。

1　災害って何？

「人の力ではどうしようもないわざわい」（例解　新国語辞典）「自然現象や人為的な原因によって人命や社会生活に被害が生じる事態をさす」（Wikipedia）とあります。

2　防災って何？

「災害をふせぎとめること」（例解　新国語辞典）「災害を未然に防ぐために行われる取り組み。災害を未然に防ぐ被害抑止のみを指す場合もあれば被害の拡大を防ぐ被害軽減や被災からの復旧までを含める場合もある」（Wikipedia）となっています。

3　当院の防災は？

①　訓　練

当院では年に 3 回「火災想定訓練」「大規模地震想定訓練」「夜間火災想定訓練」が実施されています。「火災想定訓練」は、日中に行われ初期消火訓練、非常放送による火災発報放送・避難誘導放送、避難誘導訓練、本部への報告訓練が行われています。訓練終了後には実施訓練として消火器放射訓練、救助袋による避難訓練が行われます。「大規模地震想定防災訓練」は、災害マニュアルに基づき建物被害状況の確認、負傷者確認、部署内安全区域への一次避難誘導訓練、本部からの指示による安全区域への避難誘導訓練、負傷者救助訓練、本部への報告訓練が行われています。訓練終了後の実地訓練は、救助袋取扱い・体験訓練、臨床工学技士による人形を用いた AED 取扱い訓練、緊急階段避難椅子のデモンストレーションが行われました。また、防災意識を高めるため勉強会の実施、緊急時持ち出し物品の期限確認や物品の使用が可能か点検を行っています。「夜間火災想定訓練」では、スタッフの数が少なくなる夜間を想定した訓練を行ってい

ます。

②防災マニュアルって何？

各部署に設置してある当院の火災や災害発生時にパニックとなった際、的確な行動をとることが出来るよう示したマニュアルです。

４　おわりに

「災害は忘れたころにやってくる」という言葉がありますが、大きな災害があり防災意識をもっても人間の記憶は薄れてしまいます。しかし、災害は、いつ発生するか分かりません。発生しないにこしたことはありませんが発生した時に、慌てず落ち着いた行動がとれるよう自分の部署の防火・防災マニュアル設置場所を知り、マニュアルの内容を確認し日常的に防災について考えることが大切です。また、訓練中も緊張感を持ち行動することも大切です。災害時に一人でも多くの命が助かるように皆で一緒に防災意識を高め行動しましょう。

防災訓練の様子（10/8）

学生コーナー

３年目を迎えて

外来看護学生　長友　恵美

外来学生として、増子記念病院で勤めさせていただくのも３年目となりました。入学当初は、これからの４年間をとても長いと感じていましたが、３年目を迎えて思うのは時間が過ぎるのはあっという間であるということです。学校での国家試験の対策なども始まり、約１年後には試験を控えていると考えると時間は限られているなと感じます。

１年目の時、私は勤労学生として学校で学んだことを職場で活かし職場で経験したことを実習や勉強に活かしたいと考え働きながら学校に通うという特徴を有効活用したいと考えていました。実際に、検査について説明したり診察の介助に入らせていただくことで新しい知識が増え、学校での授業にとても興味がでたりと勤労学生で良かったと思えることがたくさんありました。しかし、知識だけでは補えない部分、例えばコミュニケーションなどが今の私にはとても難しく、大きな課題だと感じています。

実習で患者さんと会話をする時は表面上だけで会話をしているようで、心まで寄り添えるようなコミュニケーションはなかなかとれず、悔しさを感じました。

また、指導者さんや職場の看護師さんへの報告・連絡・相談もとても難しく、誰に伝えても同じように伝わるような適切な表現をできるようにならなければならないと思いました。また、外来学生として最高学年となり後輩へ物事を伝えることや教えることもありますが、このような伝え方や教え方で良いのか、まだ適切な伝え方があるのではない

かと考えます。ですが、2 年目となり出来る業務の内容が増えていく姿をみるとたくましく感じ、そこから学ぶこともあります。

来年の 1 月から約 10 ヶ月の実習が始まります。とても厳しく辛いことがたくさんあると思いますが、立派な看護師になるため精一杯、ひとつひとつの患者さんとの出会いを大切にしながら頑張ろうと思います。

以上

部署報告：第３透析室

ケースカンファレンス実施による効果と今後の課題について

第 3 透析室
深川初江　市川奈保　伊藤千愛

1　はじめに

平成 27 年 3 月新館オープンにあたり、本院透析室では各部署の特殊性や患者の状態に合わせた部署運用が始まった。また、透析室の勤務体制が変更され、柔軟な応援体制・他部署連携を図っている。第３透析室は、導入期患者や入退院を繰り返すなど、状態変化の著しい患者が主となっている。そのためこれまで以上に患者状態を把握する必要性があり、その時々の状況に応じた看護実践能力が求められている。患者状態把握の目的の 1 つとして、今年度より、毎週ケースカンファレンスを実施している。ケースカンファレンスの実施により、スタッフの意識がどう変化したのか、患者との関わりにどう活かされているのかを把握し、今後のケースカンファレンスの問題点を抽出し、改善点を見つけることを目的とする。

2　研究方法

1)調査対象:第３透析室　看護師 12 名
2)調査期間:平成 27 年 9～10 月
3)調査方法:自記式アンケートによる調査
4)調査内容：ケースカンファレンスに関する意識調査
5)分析方法:単純集計

3　倫理的配慮

アンケートは無記名とし、個人が特定されないよう配慮した。また、得られた情報は研究以外の目的で使用しないこと、協力しなくても不利益にならないことを説明し、同意を得た。尚、本調査は「増子記念病院　簡易倫理審査委員会」の承認の上で実施した。

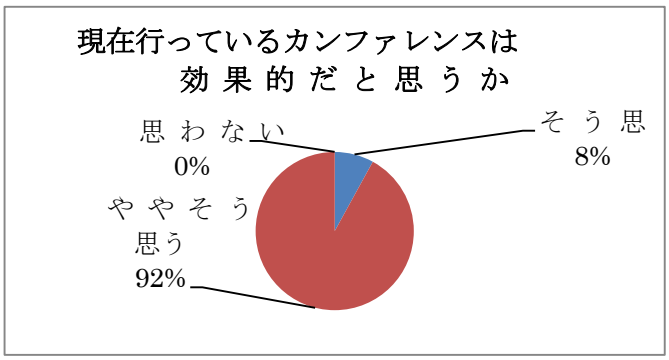
4　結果

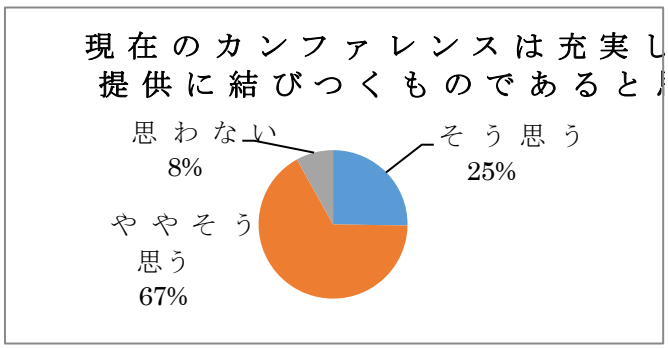
回収率、有効回答率は 100%であった。

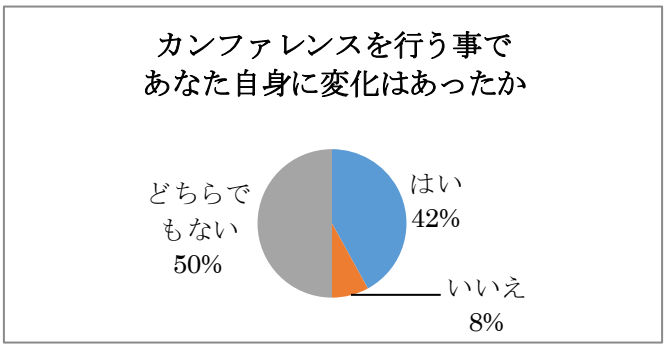
「現在行っているケースカンファレンスは効果的か」という質問では、「そう思う」「ややそう思う」との回答が 100%であり、「現在のケースカンファレンスは充実した看護提供に結びつくものであると思うか」との質問では、「そう思う」が 25%、「ややそう思う」が 66%で過半数を占めた。その理由として、透析状況だけでなく患者の生活背景を含めた情報共有ができるなど、患者の情報把握において効果的との意見が多数得られた。また、他スタッフの意見を参考にしてケアに活かせる、受持ち看護師としての自覚と責任感が芽生えるなどの意見もあった。「カンファレンスを行う事であなた自身に変化はあったか」では、「はい」が 42%、「いいえ」が 8%、「どちらでもない」が 50%であった。「はい」と回答した理由では、「受け持ち患者やケアに対する意識が向上した」「現状の問題点を意識して関われるようになった」「関わりの少ない患者の把握ができ患者への興味も出てきた」などの意

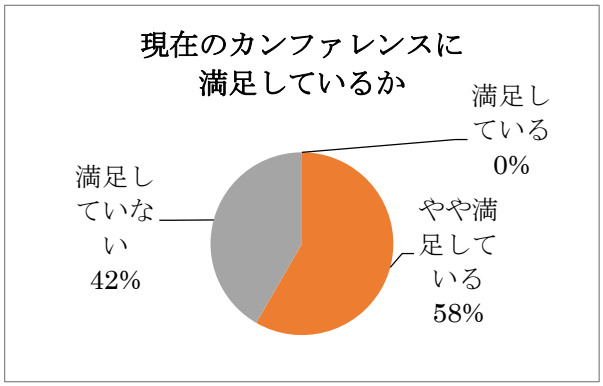
見があった。カンファレンスの効果について肯定的な意見が過半数を占める中で、「現在のカンファレンスに満足しているか」に対しては「やや満足している」が 58%で過半数を占めたが、その一方で「満足していない」との回答が 42%という結果となった。その理由として、「参加者が少なく活発な意見交換ができていない」「不参加者への情報伝達不足、患者情報の報告会で終わっており、後の看護実践につながっていない」といった回答があった。

今後のカンファレンス運用への改善策としては、カンファレンス不参加者にも情報共有できるよう働きかける、医師やコ・メディカルスタッフなどの参加を促し、「他職種間で情報を共有し、積極的な連携につなげる」「情報共有の側面が強いためもっと看護内容や問題の振り返りをして看護を充実させたい」などの回答が得られた。









「カンファレンスであなた自身に変化はあったか」について「はい」が 42%あったのに、「現在のカンファレンスに満足しているか」の質問には 42%が「満足していない」と答えた。ここに、課題が見え隠れしている。

5　考察

以上の結果より、カンファレンスの実施は、多くのスタッフが「効果的」と回答しており、特に患者の情報共有、問題点の把握において有効と考えていることがわかった。第３透析室では、入院患者や外来患者が混在しており患者の状態変化も著しい。そのため、カンファレンスの実施で、よりタイムリーに情報把握ができ、患者対応が統一されることへのメリットは大きいと考えられる。また、受け持ち看護師は日々変わるため、個々の患者に応じた現状の問題点を意識して関わることができれば、より継続性の高い看護の提供につながると考える。

また、日々の透析状況だけでなく、患者の社会的背景を把握できることで、家族や訪問看護、施設などとのスムースな連携にもつながる。

透析患者は、生涯透析治療と日常生活とを継続し、その２つを共存させているため、透析治療と生活とを密着して考える必要があり、やはり患者の全体像を捉えることは必要だと考える。

ここまでカンファレンス実施による効果について述べたが、一方で半数近くのスタッフは現状のカンファレンスに満足しておらず、改善が必要と考えていることも明らかとなった。また、スタッフ自身の変化に対する問いで半数弱が「どちらでもない」と回答しており、実践の場で十分な活用が出来ていない可能性も示唆される。

現在のカンファレンスは看護師のみの参加であり、勤務状況によって参加者数が限られてしまうことで、活発な意見交換につながらない。また情報共有の側面が強く、看護展開まで話し合いが至らないという現状の課題がみえる。そのため、スタッフ自身のカンファレンスに対する意欲向上につながっていない側面がうかがえる。また情報共有の側面が強く、看護展開まで話し合いが至らないという現状の課題がみえる。そのため、スタッフ自身のカンファレンスに対する意欲向上につながっていない側面がうかがえる。

カンファレンスに対するスタッフの意識向上のためには、今後、情報共有に留まらず、看護実践をふまえた積極的な意見交換を行う場が求められる。特に透析治療においては、看護師だけでなく医師、臨床工学技士、理学療法士、栄養士など多くの医療者が関わっており、他職種を含めたチームでの情報共有、個々に対する統一性のある介入が必要であるといわれている。

杉野は「他人の考えを聞き、刺激しあい、他者の価値観を学ぶなどチームで生み出すもののほうが、はるかに質が高く、チームの協力が得られ、結束を高める」1)と述べており、他職種を巻き込

んだカンファレンスの実施がより質の高いケアに繋がるのではないかと考える。

カンファレンスは、「①個人の体験をチームが共有し、チーム全体の技術水準を高める、②個々の患者への看護計画の妥当性の検討、③チームメンバーの意思統一を図り、効率的な看護実践を目指す、④共同学習による新知識の習得、⑤患者の見方を育てる、⑥他職種との連絡調整を目的としている」2)と川島は述べているように、カンファレンスを充実させることで得られるメリットは大きい。

多忙な勤務状況の中でもスタッフはカンファレンスをより充実させ、看護に結びつけられるようにしたいと考えており、今後の運用方法について再検討をしていく必要がある。

6　おわりに

今回のアンケート調査を検討した結果、課題はあるものの、カンファレンスの実施は、スタッフ同士の情報共有の場、行った看護の振り返りの場となり、今後も継続していくことでよりよい看護ケア提供につながると考えられる。明らかになった課題を改善しながら今後の部署全体の看護能力向上へつなげていきたい。

以上

※引用参考文献

1)杉野元子.看護を語り、調整の場としてのカンファレンスへ:成果を生むチーム活動の道具として.看護実践の科学.33(2),6-12, 2008.

2)川島みどり.看護カンファレンス.東京,医 学書院,p.8-179,2008.

看護部だより 11 月号の感想

第２HD 室の部署報告書を読んで

昴　大森裕子

パーテーションの設置によって、患者のプライバシー保護がされている点についてはとても良いと思いました。しかし機械トラブルや、緊急時の対応などでスタッフが多数ベッドサイドに集まった際には対応の妨げになるのではないか？と疑問に感じました。

デメリットについても今後課題が出てきた点などはまた伝えてほしいと思います。昴でも患者のプライバシーが保護されるような工夫をこれまで以上に考えていかなければならないと改めて感じました。

以上

訃　報

打田潤子　様　ご逝去

当「看護部だより」に「がん闘病記」を執筆していただいておりました打田潤子（看護師＝当院手術室勤務）氏が、2015 年 10 月 19 日、永眠されました（享年 63 歳）。

これまでのご活躍に感謝申し上げるとともに、ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。